

日付：2004 年 10 月 8 日

提出元：住友電気工業株式会社

題名：スペクトル適合性計算時の干渉源数

本寄書は、スペクトル適合性計算時の干渉源数についての一考察である。

同一カッド内収容を行う場合：

- 同一カッド 1 回線の値と、同一カッドを含む 2 回線の値はそれほど変わらない。
- 多重漏話減衰量の求め方として、カッド内干渉源からの漏話電力と隣接カッド干渉源からの漏話電力の総和の累積 99% 値(危険率 1% 値)を使用することが合意されたが、解析的にこの値を求めることは困難である。乱数発生による計算値の統計分布を使用する手法もあるが、この場合、乱数発生アルゴリズムの違いで結果が変わる可能性がある。

	近端漏話減衰量(NPSL)	遠端漏話減衰量(FPSL)	備考
同一カッド 1 回線	50.5 dB	54.0 dB	0.5dB 単位に丸め処理
同一カッドを含む 2 回線	50.8 dB	53.1 dB	SMS-17-ACCA-01 より
同一カッドを含む 5 回線	50.0 dB	51.5 dB	JJ100.01 第 2 版

同一カッド収容を行わない場合：

- これまで用いてきた隣接カッド 4 回線は JJ100.01 B.1 式による解析的な手法で導き出された値である。
- 同一カッド内収容を行なう場合の干渉源数を 1 回線または 2 回線に変更した場合、これまで用いてきた隣接カッド 4 回線の値のままでは、遠端漏話減衰量の値が、同一カッドを外したときのほうが悪くなるという逆転現象が発生する。

	近端漏話減衰量(NPSL)	遠端漏話減衰量(FPSL)	備考
隣接カッド 1 回線	58.5 dB	55.5 dB	0.5dB 単位に丸め処理
隣接カッド 4 回線	55.0 dB	52.0 dB	JJ100.01 第 2 版

< 課題表対応 >

C.4.3	オープン	干渉源の数を変更するか？ (案 1)カッド内 1 回線 + 隣接カッド 1 回線 (案 2)隣接カッド 2 回線 (案 3)カッド内 1 回線 + 隣接回線 2 回線	SMS-08-13 SMS-13-07 SMS-15-09 SMS-15-22 SMS-15-23 SMS-15-24
-------	------	--	--

			SMS-16-10 SMS-16-11
--	--	--	------------------------

以上